

第3章 施策の展開

基本目標 1 生涯スポーツの振興

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

市民アンケートの結果では、この1年間に運動やスポーツを「週に1回以上」している市民は、34.06%となっており、年代別にみると10代で60%と高いものの、20代～50代は30%に満たない状況です。

一方で、運動を日常的にしていない市民は、半数近い43%となっており、特に20代～50代では、ほとんどしていない割合が高く、この年代の運動習慣の向上が課題です。

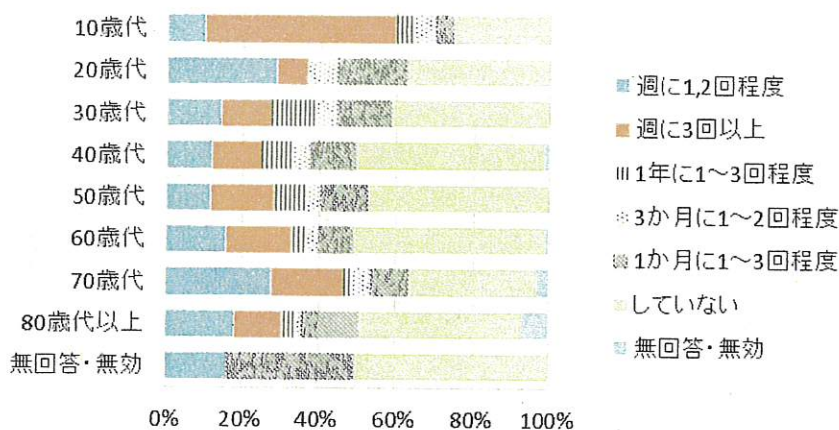
「していない」回答のうち「する機会がない」「仕事や家事が忙しくて時間がない」が突出して高く半数近くを占めており、その中でも20代～50代がそれぞれ50%を超える割合となっています。

運動やスポーツをする理由（複数回答）は、20代～40代では、主に「趣味」「自己記録や能力の向上」が高く、50代を超えると「健康・体力づくり」や「運動不足の解消」に加え、「友人や仲間との交流」が高くなっています。

これらのことから、年代による生活やニーズの変化に対応してライフステージに応じたスポーツ活動を推進する必要があります。

特に、高齢者人口の増加を迎え、健康寿命の延伸と高齢期を健康でいきいきと暮らすためには、継続したスポーツへの取組みが必要となります。

年代別スポーツ実施率



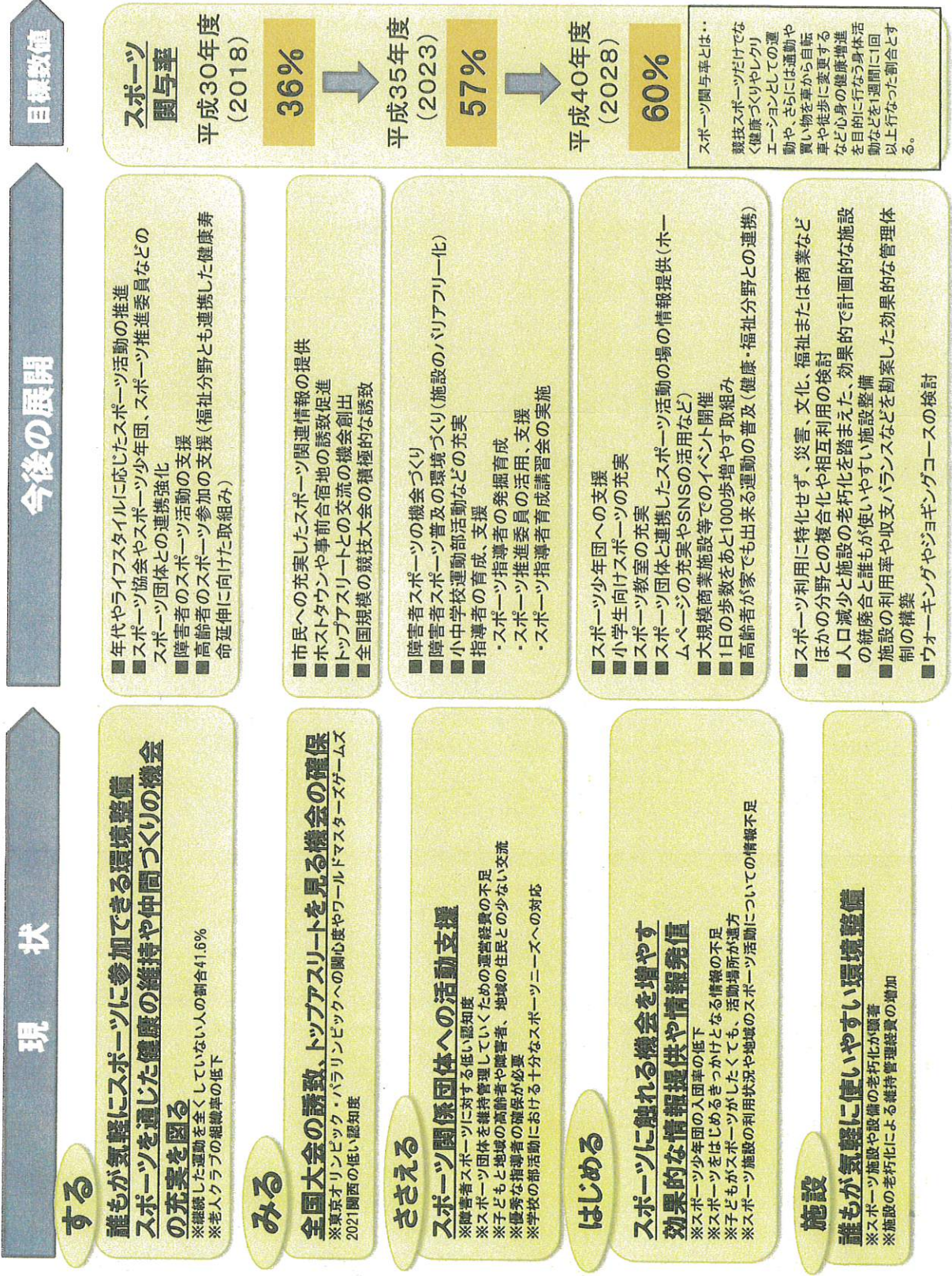
(2) スポーツによる健康で活力あるまちづくり

「未来創造 福知山」では、こころ豊かな人づくりに向け、子どもから高齢者など、すべての人が自己実現できる環境づくりを進めるため、数多くの歴史的・文化的資源を活用した地域文化の振興やスポーツ活動を推進し、「次代を担う人材育成と文化とスポーツ活動が盛んなまち」を目指しています。また市民アンケートからも、運動やスポーツをする目的（複数回答）について、「健康・体力づくり」が57.1%、「運動不足の解消」が50.0%であり、健康に対する関心が高まっていることがうかがえ、スポーツを通じて市民一人ひとりが健康でいきいきと暮らせるように、スポーツによる健康で活力あるまちづくりを推進していく必要があります。

また、全国有数の歴史と実績を誇る福知山マラソン大会は、市民の健康意識の向上と本市を全国に発信する絶好の機会であり、市内外から多くの参加者を募り継続して実施し、観光振興や地域活性化に向けた取組みも進めます。

(3) 生涯スポーツ施策の方向性体系図

生涯スポーツ施策の方向性をより明確化するため、次のとおり「する」「みる」「ささえる」「みる」「ささえる」「はじめる」「施設」の分野で区分し、それぞれの課題に対応した施策を展開していくこととします。



基本目標 2 競技スポーツの振興

(1) スポーツの競技力向上に向けた取組みの推進

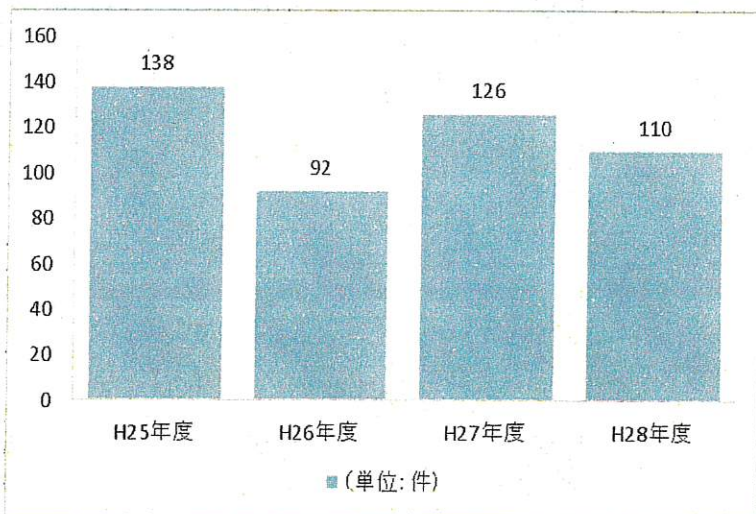
本市にゆかりのある選手が、全国や世界の舞台で活躍することは、多くの市民に夢や感動を与え、各種競技スポーツへの関心の高まりや市民のスポーツに対する参加意欲の向上につながります。また、地域での人間関係の希薄化などが課題とされる中で、本市にゆかりのある選手を市民一丸となって応援することは、地域の一体感や活力の醸成にもつながります。

スポーツをする目的は多様化していますが、競技技術が上達することは、スポーツの楽しさや内容を理解したり達成感を得られたりするなど、スポーツを続ける大きな要因にもなります。市民アンケートの結果からも「今後、スポーツ振興のために必要だと思う施策」（複数回答）は、「大規模大会を主催する」や「全国大会や国際大会へ出場する選手への助成」が上位を占めています。

これらのことから、全国大会や国際大会などで活躍できるような環境の整備や、市民それぞれのレベルに応じた競技技術の向上が図れるよう、競技スポーツを推進していく必要があります。

また、競技スポーツをはじめとして、本市でのあらゆるスポーツ活動においては、スポーツ嫌いの要因となる暴力行為を根絶しなければいけません。パワーハラスメントを根絶するとともに、特に子どもたちへの指導については旧態依然とした指導方法を改め「スポーツは楽しい」と感じ、心から楽しめるスポーツとして取り組んでいくことが最も重要です。

全国大会等出場者数の推移



本市での現状からは、競技スポーツの推進に向けて、対象競技種目を特化し強化していくことも必要な視点となります。

全国大会等での主な上位入賞種目

空手道
銃剣道
柔道
ソフトテニス
障害者陸上
ビーチバレーボール他

(2) 競技スポーツ施策の方向性体系図

競技スポーツ施策の方向性をより明確化するため、次のとおり「する」「みる」「ささえる」「はじめる」「はじめる」及び「施設」の分野で区分し、それぞれ課題に対応した施策を展開していくこととします。



基本目標3 スポーツ施設の充実・整備

(1) スポーツ施設の充実・整備

本市は、三段池公園をはじめ長田野公園、市民運動場など多くのスポーツ施設を有しています。

市民がスポーツに親しむためには、住居や職場など生活に身近な場所に施設が整備されていることが重要です。スポーツには様々な種目があり、それぞれに応じた施設環境も必要です。また、使いやすく効率的に利用できる仕組みも重要となります。

近年の社会情勢の変化などによる生活スタイルやニーズの多様化により、スポーツ活動の場所の確保が困難であるとともに、施設の老朽化なども課題であり、競技団体が求める拠点施設の充実・整備も必要となっています。

まずは、既存施設の最大限の活用と将来にわたる安全なスポーツ環境を持続的に提供するために、施設の長寿命化や運用改善を図る環境整備に加え、地域特性なども踏まえ、スポーツを「する・みる・ささえる・はじめる」視点から市民ニーズに適切に応えることができるよう利用しやすい施設運営のあり方の方向性を定め、施設の利用促進を図ります。

本計画では、主な機能や対象から市内のスポーツ施設を「主要スポーツ拠点」と「地域交流拠点」として分類するとともに、「交流」「防災」など施設が有する様々な要素も勘案し、地域特性も考慮した必要な長寿命化や機能充実、統廃合などについて、公共施設マネジメントとの整合を図り進めていきます。

(2) 《主要スポーツ拠点》(主要競技施設)の今後の整備と管理運営の方向性

三段池公園(総合体育館(メイン・サブアリーナ)、武道館(剣道場・柔道場)、テニスコート、多目的グラウンド)、長田野公園(体育館、野球場、庭球場)及び市民運動場周辺(体育館、野球場、庭球場、弓道場、温水プール)を本市の主要スポーツ拠点として位置付けたうえで、施設の機能を保全しつつ機能集約についても検討し、適正な再配置を行います。

管理運営にあたっては、施設のハード・ソフト両面から効果的な管理体制に見直し、更なる民間活力の活用や官民協働の手法により、施設の稼働率の向上と市民の利便性の向上を目指します。

【施設の機能別方向性】

① 体育館

■ 三段池公園総合体育館

観客席を有する京都府北部有数の大規模な総合体育館として、スポーツ活動はもとより多様なイベントの実施、また地域の防災拠点として利用されていることから、今後も維持・保全に努めるとともに、競技会運営に必要な設備・機能について整備を促進します。

■ 長田野公園体育館及び市民体育館

長田野公園体育館は、昭和56(1981)年に京都府と京都府体育協会が建設し、福知山市に移管を受けた体育館です。舞鶴若狭自動車道福知山ICや国道9号線に近接し、京阪神からも利便性の高い地域にあります。

また、市民体育館は、昭和47(1972)年に設置し、市の中心部にあり利便性も高いことから主に健康体操や卓球など、日常の健康づくりに多くの利用があります。

いずれの体育館も各種競技会や市民スポーツの拠点施設として利用されていますが、老朽化が進んでおり今後の施設の維持・保全について検討が必要です。

体育館機能に加え、地域防災や交流の拠点など多様な機能を備えた複合目的の施設として利用者ニーズに沿って、あらゆる方面からの可能性を検討したうえで、幼少期から高齢者ま

で、また、障害の有無にも関わらないユニバーサルデザイン化された施設として、効果的な機能集約や統廃合などを検討していくこととします。

②テニスコート（庭球場）

2020年全国高校総体やワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を契機として、三段池公園内での機能集約と、市民運動場（庭球場）、長田野公園庭球場の利用状況から判断した施設整備を検討していくこととします。

③野球場など

■三段池公園多目的グラウンド

学童野球、ソフトボール、サッカー、ラグビー、グラウンド・ゴルフなど多種多様な種目が実施できるグラウンドであり、今後も現在の機能を維持・保全します。

■長田野公園野球場

社会人野球や学童野球の会場として多くの利用もあり、現在の機能を維持・保全します。

■市民運動場（野球場）

本市で唯一、磁気反転型のLEDスコアボードを設置した野球場として今後も必要な維持・保全を行います。

観客の駐車スペースの問題に加え、施設の機能強化を図るため、将来的には移転などの検討が必要です。

④その他

■温水プール

本市で唯一の温水プール施設であり、その利用状況からも市民ニーズが高いことがうかがえます。

本施設は経年による老朽化が進んでおり、大規模改修や新設なども求められています。

水中ウォーキングをはじめとした市民の健康づくりの場としても期待されており、民間とも連携したあり方の検討を進めます。

■武道館

平成21（2009）年に開設した武道館は、柔道、剣道などの武道での利用に限らず多目的な利用が可能な施設として、現状の機能を維持・保全します。

■市民運動場（弓道場）

施設の老朽化も進んでおり、代替施設や将来的には移転などの検討が必要です。

■陸上競技場

京都府北部の拠点となるべく、陸上競技場の設置について継続して京都府への要望を行い、実現を目指します。

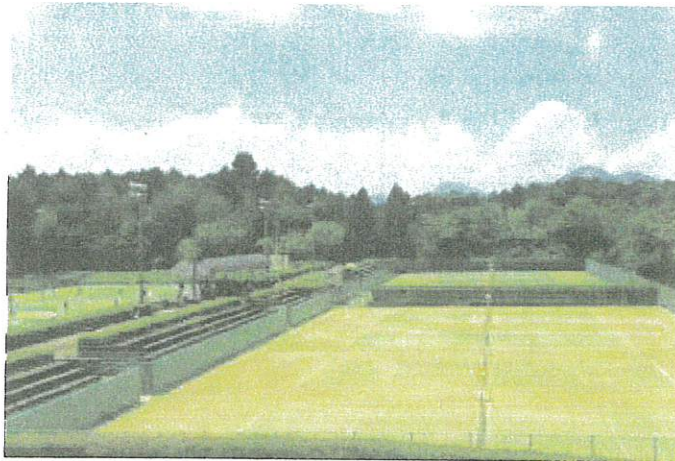
(3) 《地域交流拠点》(小規模スポーツ施設)の今後の方向性

市内各所に点在する小規模なスポーツ施設や地域公民館併設の体育館・グラウンドなどは、スポーツ目的だけでなく、地域の交流や防災など、さまざまな拠点機能を有しています。

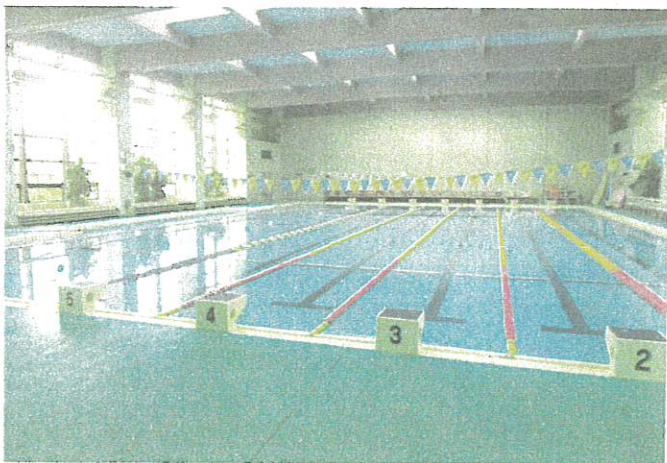
また、統廃合により閉校となった学校の体育館やグラウンドも増加しています。

同一地域内にこうした複数のスポーツ施設が存在する場合は、夜間や休日などにおける学校施設の有効利用の可能性も含めて、生涯スポーツの振興を中心的視点として、施設の必要性や管理運営の方針などを地域要望と優先順位により決定し、地域ごとに機能統合や整備の方針を検討していく方向性が必要です。

なお、平成18(2006)年度より地域交流拠点として利用されてきた由良川猪崎河川敷運動広場は、近年、水害による被害が頻発し利用困難な状況となっていますが、市民の利用ニーズも高いため、代替施設の確保などに取り組みます。



三段池公園テニスコート



福知山市温水プール



三段池公園総合体育館

(4) スポーツ施設についての今後の展開及び検討事項

スポーツ施設は、スポーツ活動の機能だけではなく地域交流や防災拠点などとといった様々な機能も兼ね備えています。今後のスポーツ施設の充実・整備を図るうえで主要スポーツ拠点及び地域交流拠点(学校体育施設や地域公民館)に各家庭を含めたスポーツ施設の今後の展開や検討事項について、生涯スポーツ、競技スポーツ、防災及び交流(コミュニティ・催事・賑わい創出)の観点で次のとおり設定し、スポーツ施設の充実・整備を進めていきます。

視点		施設		主要スポーツ拠点	地域交流拠点 地域スポーツ施設(地域公民館除く)	学校体育施設	地域公民館等施設	各家庭
生涯スポーツ	1 今後の展開	・全国規模の競技大会の積極的な誘致 ・ホストタウンや事前合宿地の誘致促進	・スポーツ利用に特化せず、防災、文化、福祉などは商業などほかの分野との複合化や相互利用の検討 ・人口減少と施設の老朽化を踏まえ、効果的に計画した施設の統廃合と誰もが使いやすい施設整備	・維持管理経費を安価に抑える	・夜間や休日などの空き時間に、生涯スポーツの場として、積極的な利用促進	・生涯スポーツの場として、積極的な利用促進 ・統廃合により閉校となった学校施設と同一地域内の複数のスポーツ施設の機能的な統合などを検討	・1日の歩数をあと1000歩増やす取組み ・高齢者が家ででも出来る運動の普及(健康・福祉分野との連携)	
	2 検討事項	・バリアフリー化 ・ユニバーサルデザイン化			・維持管理経費を安価に抑える	・維持管理経費を安価に抑える	・ふくちライフ体験や肝筋体操の普及、啓発	
競技スポーツ	1 今後の展開	・主要競技大会の誘致に向けスポーツ施設を効率的に集約し機能を拡充 ・ホストタウンや事前合宿地の誘致促進 ・市外のチームとの交流試合などによる合宿等の誘致・スポーツ観光の推進	・人口減少と施設の老朽化を踏まえ、効果的な施設の統廃合と整備	・夜間や休日などの空き時間に、競技スポーツの場として、積極的な利用促進	・人口減少と施設の老朽化を踏まえ、効果的な施設の統廃合と整備 ・競技スポーツの練習用施設としての活用 ・統廃合により閉校となった学校施設と同一地域内の複数のスポーツ施設の機能的な統合などを検討			
	2 検討事項	・優先競技団体の選定 ・施設拡充整備費 ・施設の老朽化への対応 ・特定財源の確保	・地域住民への理解	・維持管理経費や老朽化に対する整備費用の確保		・練習用施設としての機能拡充		
防災	1 今後の展開	・主要防災拠点としての位置づけ	・スポーツ利用に特化せず、防災の分野との複合化や相互利用の検討	・地域防災拠点としての位置づけ	・地域防災拠点としての位置づけ	・スポーツ利用に特化せず、防災、文化、福祉などは商業などほかの分野との複合化や相互利用の検討		
	2 検討事項	・主要な防災拠点として必要な施設整備	・地域防災拠点として必要な施設整備	・避難所など地域防災拠点として必要な施設整備	・地域防災拠点として必要な施設整備			
交流(コミュニティ)	1 今後の展開		・地域住民の積極的な利用促進 ・スポーツ利用に特化せず、文化、福祉などは商業などほかの分野との複合化や相互利用の検討	・地域住民の積極的な利用促進 ・スポーツの場として積極的な利用促進	・地域住民の積極的な利用促進 ・統廃合により閉校となった学校施設と同一地域内の複数のスポーツ施設の機能的な統合などを検討			
	2 検討事項	・積極的な商業利用に向けた誘致	・地域利用者自ら行う維持管理 ・地域住民への譲渡	・地域利用者自ら行う維持管理 ・地域住民への譲渡	・地域利用者自ら行う維持管理			
交流(催事・賑わい創出)	1 今後の展開		・地域住民の積極的な利用促進 ・スポーツ利用に特化せず、文化、福祉などは商業などほかの分野との複合化や相互利用の検討	・地域利用者自ら行う維持管理 ・地域住民への譲渡	・地域利用者自ら行う維持管理 ・地域住民への譲渡			
	2 検討事項	・空調設備などの改修など商用利用者からみた施設改修	・地域利用者自ら行う維持管理 ・地域住民への譲渡	・地域利用者自ら行う維持管理 ・地域住民への譲渡				

第4章 計画の推進に向けて

1 計画の推進体制

本計画の実現に向けて、市民、関係機関、関係団体、市が連携、協働しながら一体となって進めていくことが重要であることから、福知山市ホームページなどにおいて本計画の周知を図るとともに、それぞれの役割などを認識し、連携、協働をより一層強め計画の実現に向けた取組みを推進します。

さらに、国や府のスポーツ施策の状況、本市の最上位計画である「未来創造 福知山」に基づくスポーツ施策、関連計画の施策や事業の進捗状況などとの整合を図り、本計画に定める施策の円滑な実施に努めます。

計画の推進にあたっては、ネーミングライツ（施設の命名権）制度をはじめ民間資金やノウハウの活用のほか、あらゆる財源確保を検討し取り組んでいくこととします。

2 計画の進行管理

本計画の進行管理にあたっては、目標計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）の4段階を繰り返すことによる「PDCAサイクル」の考え方を基本とし、事業の継続的な改善を図ります。

なお、本計画の進捗状況の検証、評価にあたっては、計画で掲げた基本目標を達成するための具体的な実施計画（アクションプラン）を定め、外部委員を含めたスポーツ推進計画フォローアップ会議（仮称）などにおいて、施策の実施状況や数値目標などを点検・評価し、計画の適切な進行管理を行います。

①スポーツ推進計画フォローアップ会議（仮称）の設置

- ・スポーツ推進計画の実施状況の検証
- ・スポーツ施設の適正配置について検討

P→D→C→Aサイクル

②スポーツ推進計画の方針に沿ったアクションプランの策定

Plan
中間見直しまで5年間のアクションプランの策定

③アクションプランの実現に向けた取組み

Do
関係団体や市民との合意形成

④スポーツ推進計画フォローアップ会議（仮称）への報告、アクションプランの見直し

Check/Action
進捗状況の検証や情報の共有、改善